

☆☆

「ほんわか・ほ」通信

020号 (22・01・01発行)

若穂地区住民自治協議会

☆☆

新年おめでとうございます。

皆さま、ご家族お揃いで新しい年をお迎えのこととお喜び申し上げます。長野市版「都市内分権」も今年4月からは本格実施となり、市内32の住民自治協議会が各々の住民自治に挑戦します。まだヨチヨチ歩きの「ほんわか・ほ協議会」ですが、皆さまと一緒に、活力と誇りにあふれた若穂のまちづくりを進めます。

若穂地区住民自治協議会
会長
役員一同

長野市若穂支所
支所長
職員一同

今年「都市内分権元年」。



去年は、突如として屋代線の深刻な経営赤字が表面化しました。若穂をはじめ河東地域の先人たちが築き守ってきた大動脈は、廃線の危機に瀕しています。「都市内分権元年」にあたり、若穂に突き付けられた最大の課題です。 (写真は「電車にゆられて古代の旅」)

長野電鉄活性化協議会（ワーキンググループ）で「総合連携計画案」を検討

- ◆22年度に実施される、再生・活性化のための16の事業(案)が示されました。内容は裏面の表のとおりです。これまでの調査を通じて最も要望が強いのは通勤時間帯や深夜の増便ですが、現有車両を運用する前提から通勤時間帯は除かれ、その試行期間もたった「1カ月」とされていることは大変残念です。マイカー通勤からの転換が決め手となりますので、さらに検討と工夫が必要と思われます。
- ◆ところで、最近6カ月間の旅客収入は、長野電鉄全体でも対前年比5%以上の減収に陥っているそうです。特に10月・11月の落ち込みは2ケタ台と深刻で、屋代線だけにとどまらず長野線も含めた全体的な利



用促進が急務となってきました。公共交通を存続させるためには、住民の意識改革も含めた総合的な対策が必要です。

- ◆若穂自治協は河東地域の動脈を守るため、活性化協議会が進める「連携計画」に合わせて独自の利用促進策を進める方針で、企画や対外折衝を担うプロジェクトや、地域をあげた利用促進を図るための運動体設立などを検討しています。
- ◆スタッフの公募もおこなっていますので、存続運動にご協力いただける方は事務局までご連絡ください。



【22年度に実施予定の、再生・活性化のための16事業】(案) (万円)

NO	事業内容	経費
1	運行頻度の増加(現有施設での増便)	200
2	パークアンドライド駐車場の整備	30
3	サイクルアンドライド駐車場の整備	20
4	昼間時のサイクルトレイン	260
5	持参人式通勤定期の販売	15
6	割引率の高い年間通学定期の販売	—
7	早朝・深夜の利用可能時間帯の拡大	100
8	ご意見箱の設置	13
9	駅及び列車内の案内表示の充実、時刻表の配布	50
10	長野駅、善光寺等を起点とした屋代線を利用する周遊割引キップ(集客施設と連携した割引キップ)	—
11	イベント列車の運行(従前から実施)	—
12	自動車利用観光客向けのパークアンドライドと割引キップ	570
13	置き回数券(家庭や企業へ通常より割引いた回数券を配布)	680
14	教育の推進	—
15	インターネット等を活用した屋代線情報の提供、広報活動	—
16	住民意識啓発のためのシンポジウム開催、パンフレットの作成	630

合計 2,568万円

若穂の高校生の学校別通学利用は？

- 須坂高校(21人)
- 須坂商業高校(22人)
- 須坂園芸高校(43人)
- 須坂東高校(27人)
- 屋代高校(1人)

＝長野地区公共交通対策会議調べ：21年6月＝

懐かしい「昔の若穂」を
残したい！！

ご連絡は



電話 282-2400(若穂支所代表)
IP電話 050-8686-5700(直通)
若穂有線 2062(直通)

Email

(「須坂新聞」12月12日)